本稿は、『ミルチア・エリアーデ―ヨアン・ペトル・クリアーヌ往復書簡』を主な資料として用いることによって、レジオナール運動へのエリアーデの関与をめぐる両者の質疑応答について考察するものである。レジオナール運動とは、コルネリウ・ゼレア・コドレアヌを創始者とするルーマニアの民族主義運動の名称である。レジオナール運動は、第二次世界大戦中にテロリズムや反ユダヤ主義運動を展開したために、戦後になってからルーマニアのファシズム運動として批判されるようになった。1970 年代初頭、エリアーデがこのレジオナール運動に関与していた可能性を示す資料が公になると、エリアーデの思想における反ユダヤ主義や親ナチズム的性質を指摘する批判がイタリアやフランス、アメリカ合衆国において巻き起こった。エリアーデ本人は、生前、レジオナール運動について公の場で発言することはなかった。またレジオナール運動との関係を追及する批判者に対しても、エリアーデが直接反論したことはなかった。エリアーデによるこのような沈黙は、疑惑を一層と深め、エリアーデに対するバッシングともいえるような批判をまねく結果となった。

このような動向において『エリアーデ―クリアーヌ往復書簡』に着目する意義は、レジオナール運動に関するエリアーデの直接的な発言を確認できるという点にある。1977 年 12 月にクリアーヌは、レジオナール運動に関与したという疑惑がエリアーデにかけられていることを知った。クリアーヌは、真相を確かめるためにエリアーデに何度も手紙を出した。それらの手紙には、レジオナール運動について沈黙したことに対するエリアーデの弁解や、エリアーデの沈黙に対するクリアーヌの応答などが記されており、エリアーデとレジオナール運動との関係だけでなく、エリアーデとクリアーヌの思想的関係を究明する上での貴重な資料だといえる。本稿では、この『往復書簡』を資料として用いることによって、エリアーデとレジオナール運動、エリアーデとクリアーヌそれぞれの関係における新たな側面を明らかにしたい。